

# ほっか ほかの おべんとう



きせつは、<sup>はる</sup>春。  
ももいろのかわいらしい<sup>はな</sup>花が それはそれは きれいにさいている  
かたくりの<sup>さと</sup>里に <sup>ちい</sup>小さな<sup>がっこう</sup>学校がありました。



そこには、4人の<sup>よにん</sup>こどもたちが いました。  
こいぬの<sup>ぼち</sup>、こねこの<sup>たま</sup>、ひよこの<sup>ピーコ</sup>。  
そして <sup>おんな</sup>女の子のはなちゃんです。

みんな とても なかよし。



はなちゃん

ぼち



たま



ピーコ



きょうは、まちにまた たのしい えんそくの<sup>ひ</sup>日。  
モ-モ-先生<sup>せんせい</sup>のあとを みんないっしょに ゆっくり ゆっくり  
丘<sup>おか</sup>の上をめぐらして あるいていきました。



やったー!! とうちゃーく!!

さあ、まちにまた おべんとうのじかん。

みんな どんな おべんとうをもってきたのかな?

ほちは ジュージューと  
あぶらののった  
元気もりもり  
やき肉べんとう。



たまは やまもりごはん  
まるまるふとったカツオが  
一匹のった  
やき魚べんとう。



ピーコは  
かわいいはこべの  
いっぱい つまった  
サラダのおべんとう。



はなちゃんは  
だいすきな  
とりのからあげ、  
たこのウィンナー、  
そして あま〜い  
たまごやきのつまた  
はなやかな  
おべんとうです。



さあ、みんなで「いただきますーす!!」  
「みんなで食べるとおいしいね。」「らいねんのえんそくもはれるといいね。」  
なかよしのみんなにとって わすれられない思い出となりました。

そして、<sup>つきひ</sup>月日はながれ...  
また、<sup>はる</sup>春がめぐってきました。



あしたは、まちにまた えんそくの日。  
しかし、教室には はなちゃんのすがたがありません。  
モーモー先生が かなしい顔で はなしはじめました。  
「実は... はなちゃんが きのう 急に  
ぐあいが わるくなって 入院したんだよ。」  
「ええ!!」  
みんなは 顔を みあわせて  
びっくりしました。

あしたは  
えんそく...

五月一日(月)直ピン



学校がおわるとすぐに、  
3人ははなちゃんのだいすきなケーキを  
買って おみまいへ行きました。


ところが、

「ごめんなさいね。はな <sup>びょうき</sup> 病気だから  
ケーキは たべられないのよ。」  
はなちゃんのお母さんがいいました。

お母さんのよこで かなしそうに  
うっむく はなちゃんをみて  
みんなも かなしくなっていました。







かえりみち。  
病<sup>びょう</sup>気のはなちゃんを はげまして  
あげようと ほち.たま.ピーコは  
一<sup>いっしょ</sup>生けんめい かんがえました。

「そうだ!! もうすぐ はなちゃんのたんじょうび。  
たのしいパーティを ひらいてあげよう。」  
「すてきな プレゼントも よういしてね。」  
「いいね. きまり!!」

いよいよ きょうは、まちにまた はなちゃんのたんじょうびです。  
みんなは はなちゃんを病院のなかにわにつれだすと、  
「はなちゃん、たんじょうび おめでとう!!」  
赤いリボンをつけたプレゼントを はなちゃんに  
わたしました。



はなちゃんが わくわくしながら  
はこをあけてみると...  
まあ、どうでしょう!!

はなちゃんのめのまえに  
こでまりの花をいっぱいかざりつけた  
フラワーケーキ、そしてはなちゃんのだいこうぶつ  
がいっぱいあったお花のおべんとうが  
あらわれたのです。

「みんな、ありがとう...」  
はなちゃんはうれしくてむねがいっぱい  
になりました。

「いったいどうやってこんなすてきな  
おべんとうをついたの？」  
おどろくはなちゃんに3人がこたえました。



「ぼくは、な<sup>はな</sup>の花をいっばいつんで  
たまごやきをついたよ。  
となり<sup>ちり</sup>町まで<sup>い</sup>行ってきたんだ。  
走る<sup>はし</sup>のはとくだからね。」  
ほちがいました。



「わたしは、ふじづるで おべんとうばこを  
あんだのよ。ふじづるをとろうと木に  
のぼったとき、あぶなく おちそうに  
なったの。こわかったわ。」  
たまがいました。



「わたしは、土<sup>つち</sup>のおだんごをころがして  
からあげをついたわ。そばにあった  
のいちごもかざしてみたの。  
そして、ごはんはわたしのだいすきな  
はこべの花よ。  
あざみのうめほしもすてきでしょ。」  
ピーコがいました。



「ちょっと、まってね。」

しばらくすると はなちゃんは、お水をいれた カラーグラスを はこんできました。

「はい、どうぞ。わたしから みんなにプレゼント♡」

「わあー、メロンソーダみたい。」

「わたしは オレンジジュースね。」

「ぼくは ソーダ水だ。」



キラキラひかるお水に かわいらしいケーキ、

そして、ほんのり花のにおりがするおべんとうをかこんで  
たのしいひとときを すごしました。

つぎ ひ びゅう  
次の日、病室には  
たのしそうにおしゃべり  
するはなちゃんとお母さん  
がいました。

「お母さんのおべんとうに  
まけないくらい  
ほかほかあたたかい  
おべんとうだわ。」

はなちゃんのえがおをみて  
お母さんもうれしく  
なりました。



はなちゃんの退院も もうすぐでしょう。  
病室のまどからはなちゃんをみまもる  
みんなの心も ほかほかしてくるようでした。

え ぶん  
絵と文

おおぬま なおこ